

お知らせ & TOPICS

■ ■ 導入機器説明会 ■ ■

本年度、JKA補助事業等によって当センターへ導入した機器について説明会を開催します。

詳細及び申込みは、後日ホームページ、メルマガ等で案内します。

日付:令和5年2月14日(火)

場所:工業技術センター 大会議室ほか

- 機器名:1)微量全窒素・硫黄分析装置
(日東精工アナリテック(株))
2)イオンクロマトグラフ
(サーモフィッシャーサイエンティフィック(株))
3)その他の導入機器

内容:機器の紹介と取扱い説明など

参加費:無料

<お問合せ・申込先>

工業技術センター 食品・化学部, 地域資源部

■ ■ 工場排水管理技術講習会 ■ ■

工場排水の処理方法および処理施設の管理技術について、知識および技術の向上を図ることを目的に工場排水管理技術講習会を開催します。

詳細及び申込みは、後日ホームページ・メルマガ等で案内します。

日付:令和5年3月中旬(予定)

会場:工業技術センター 大会議室

定員:70名程度(オンライン参加も受付)

参加費:無料

<お問合せ・申込先>

工業技術センター 食品・化学部

■ ■ 特許登録「デュアル装着型ピンゲージアダプター」 ■ ■

(特許第7054101号)

県と鹿児島精機(株)で令和4年1月12日に特許出願した「デュアル装着型ピンゲージアダプター」が、令和4年4月5日に特許登録されました。

機械部品の中には、軸部品と組み合わせるために精密な穴が加工された部品があります。これらの穴が図面通りに加工されているかどうかを確認するために、生産現場ではピンゲージと呼ばれる測定工具を使用します。

この検査では、図面に指示された寸法許容値の中で、下限値と上限値の2種類の直径のピンゲージを用意します。下限値のピンゲージを「通り」、もう片方を「止まり」と呼び、検査者が手作業によって対象の穴に2つのピンゲージをそれぞれ物理的に差込み、判定します。しかし、判定基準が検査者の感覚に依るところが大きいため、作業者によって判定基準が異なったり、過剰な挿入力によって製品に傷を付けてしまうという問題がありました。

そこで本発明では、検査者の感覚に依存しない検査が可能で、かつ「通り」と「止まり」の2本のピンゲージを効率的に使用できるピンゲージアダプター機構を開発しました。

図のようにアダプターの両端には、「通り」および「止まり」の2種類のピンゲージを装着できます。

また、負荷検出部(圧縮ばね・ロードセル等)が内蔵されており、検査時の挿入力を検知します。

挿入力のしきい値を判定規準として設定しておくことで、どの検査者でも同一の判定基準で検査を行うことが可能となります。

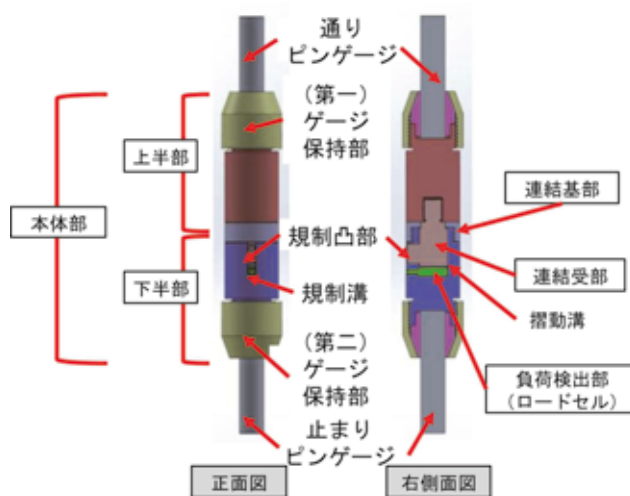


図 デュアル装着型ピンゲージアダプター

■ ■ 利用者アンケート調査の概要と結果 ■ ■

工業技術センターにおいて技術相談などの技術支援を利用された方を対象に、アンケートを実施し、満足度などを調査しました。

アンケート調査の概要と結果は次のとおりです。

調査目的	中期業務計画(令和4～8年度)に基づき、技術支援の利用状況や要望等を調査し、業務改善に役立てる。
調査対象	技術相談・指導、依頼分析・試験、設備利用の支援業務を利用した来所者
調査期間	令和4年7月1日～10月31日
調査方法	書面およびWebページでのアンケート
調査票	選択式および記述式、9項目
回答数	100

1 回答者

回答者の業種は、木材・木製品製造業、食料品製造業、電気機械器具製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業など多岐にわたっており、事業所規模は、84%が中小企業に相当する企業で、そのうち32%が20人以下の小規模企業でした。

2 利用項目と利用目的

利用項目は、設備利用が29%、技術相談・指導が28%、依頼分析・試験が24%であり、利用目的は多い順に、「新規開発」「品質検査」「改良・改善」「不具合の原因究明」でした。

3 成果の評価、経済的価値

期待した成果が得られたかについては、すべての企業がある程度以上の成果が得られたとの回答でした。



技術支援を利用した経済的価値を尋ねたところ、価値がなかったとする回答はなく、21%の回答に有額の記入(数千円から5,000万円まで)があり、金銭換算の中央値は、10万円でした。

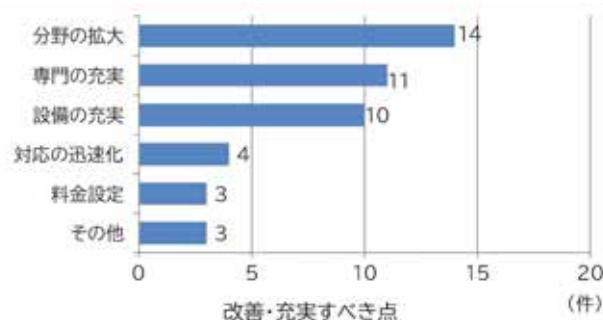
4 対応の満足度

支援時の対応を、接客、支援内容、事務手続き、総合評価の4つの視点について尋ねたところ、「事務手続き手順に改善希望」がありました。ほとんどが「非常に満足」「満足」で、総合評価では79%が「非常に満足」との評価でした。また、「今後も再度利用したいか」との問いについても、100%が「また利用したい」との回答でした。



5 改善、充実すべき点

今後、改善・充実すべき点では56%が「特になし」でしたが、「設備の充実」「分野の拡大」を求める声が多く、自由記入欄でも「設備の充実」を望むご意見をいただきました。



今回のアンケート調査において、貴重なご意見・ご要望をいただきました。これを参考に、今後も業務改善に努めて参ります。

ご協力いただきました企業の皆様に、感謝いたします。

■ ■ 特許技術で2022かごしまの新特産品コンクール県知事賞受賞 ■ ■

10月31日に開催された「2022かごしまの新特産品コンクール」の工芸・生活用品部門で、当センターが技術支援を行った(有)岩切美巧堂(霧島市)の「薩摩錫桜島タンブラー『彩光』」が県知事賞を受賞しました。

「彩光」は、県の伝統工芸である薩摩錫のタンブラーに桜島溶岩由来の薄膜を施したもので、表面が虹色に発色するのが特徴で、当センターの保有特許「ターゲットの製造方法および薄膜の製造方法」の技術が用いられております。

今後も当センターでは伝統工芸も含めた鹿児島のものづくりに対して、このような技術支援を行っていきます。



知事賞表彰式後の記念写真

■ ■ 九州・沖縄産業技術オープンイノベーションデーに出展 ■ ■

11月22日に、九州・沖縄産業技術オープンイノベーションデーが開催されました。当センターからは食品・化学部安藤部長が日本エクスラン工業(株)とともに「できたての芋焼酎を早く・おいしくお届けするー新しい醸造用資材の開発ー」のテーマで口頭発表し、優秀賞を受賞しました。この発表は造りたての芋焼酎に含まれる硫黄ガスを除去する資材に関するもので、銀と硫黄が反応する性質を利用しています。

また、薩摩焼のデザイン開発支援と山川漬の製法と品質の特徴に関する2テーマについてポスター発表を行い、山川漬のテーマでは優秀賞を受賞しました。

<表紙の説明>

三次元測定機を用いたスキャニング測定の様子を示します(上段)。スキャニング測定の結果は点群データとして取り込まれます(左下)。DXF形式等の設計データと点群データを比較し、その誤差を拡大表示して評価することができます(右下)。



口頭発表の様子



鹿工技ニュース No.140

2023年1月号(年4回発行)

<https://www.kagoshima-it.go.jp>

【発行元/問い合わせ先】

鹿児島県工業技術センター 鹿工技ニュース等編集委員会

〒899-5105 鹿児島県霧島市隼人町小田1445-1

TEL 0995-43-5111 FAX 0995-64-2111 (禁無断転載)

